

「がんの地域連携パス」

平成28年4月19日

がん患者の診療を拠点病院担当医・かかりつけ医・訪問看護師などが役割を分担して地域のチームで連携して行う**一連の地域連携計画書のこと**
(がん患者に対する診療の全体像を体系化した表)

術後 受診・検査は現在治療中の病気や体調により変化します。

	1-2週間	1-2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	1年	1年3ヶ月
拠点病院	/		/		/		/	
診察	●		●		●		●	
採血	●		●		●		●	
CT							●	
エコー	がん拠点病院とかかりつけ医の役割分担と連携を明記							
胃カメラ								
かかりつけ医	/	/	/	/	/	/	/	/
診察		●		●		●		●
採血		●		●		●		●
エコー								
胃カメラ							○	

患者、地域の診療所、がん拠点病院で、患者情報と目標を共有
目標は、全身管理(併存疾患の管理)と、再発・合併症の早期発見

あくまでも

「患者中心の地域チーム医療の推進」

患者・家族の立場に立って医療の質と安心を確保

**目標：再発や合併症の早期発見
全身管理(併存疾患の管理)**

- **地域のチームで、医療情報と目標を共有してがん医療を行う**
- **まずは地域での連携作りが重要。今後の在宅や緩和連携などへつなげる**
- **あくまでも患者・家族にとって、質の向上と安心できるがん医療を推進する**

→ **患者・家族、かかりつけ医、拠点病院
のすべてにメリットがあるように**

「がんの地域連携パス」 ー確認事項ー

1. 「地域連携パス」の対象患者は？

まずは比較的病状が安定している病態の患者さんが対象

2. 連携医はどう決めるのか？

原則として、紹介元の先生に依頼

(患者と紹介元の先生との信頼関係を損なわないように)

紹介元の先生が困難な場合は、患者・家族と相談のうえ、

適切な連携医に依頼(連携医の決定は透明性のある方法で行

う (神戸市では逆紹介システムを利用)

3. 今までの地域連携との違いは？ 基本的には同じ

すべての患者さんに地域連携で逆紹介を行う

パス適用の場合は、地域連携計画表などを提示して

地域のチームでの治療方針や緊急時対応などを目に

見える形に記載

安心感 ↑



がん医療の均てん化を目指して

TOPICS

医療関係者の方へ

08/01 兵庫乳腺画像診断研究会共催「第33回兵庫乳腺画像診断研究会」を開催します。

一般の方へ

医療関係者の方へ

07/25 西宮市立中央病院主催・関西学院大学、兵庫県看護協会阪神南支部共催「第65回 西宮市 市民健康講座 口腔疾患(口内炎～口腔癌)の予防と治療 - 早期発見・早期治療 -」を開催します

医療関係者の方へ

07/15 兵庫頭頸部腫瘍研究会「第14回兵庫頭頸部腫瘍研究会」開催のお知らせ。

医療関係者の方へ

07/11 兵庫県白血病懇話会「第74回兵庫県白血病懇話会」を開催します。

医療関係者の方へ

06/27 姫路癌治療研究会「第22回姫路癌治療研究会」を開催します。

医療関係者の方へ

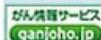
06/13 東播磨緩和ケア研究会「第21回東播磨緩和ケア研究会」を開催します。

 [がん診療連携拠点病院](#)

 [兵庫県がん地域連携パス](#)

 [兵庫県緩和ケア研修会](#)

 [兵庫県がん対策推進計画](#)

 [がん相談支援センター一覧](#)

 [関連情報リンク](#)

 [がん情報サービス ganjoho.jp](#)

 都道府県がん診療連携拠点病院
[兵庫県立がんセンター](#)

兵庫県がん診療連携協議会のホームページもご参照下さい

がんの地域連携パス

運用中のパス（兵庫県統一版；7臓器）：

- H22年度策定：肺がん，胃がん，大腸がん，肝がん，乳がん
- H24年度策定：胃がんESD，*肺がん術後汎用（Ⅰ期～Ⅲ期）*，子宮体がん，前立腺がん

- 平成24年：「がんの地域連携パスに関する施設基準の届出書類」の簡略化
連携医療機関からの届け出は不要。

（拠点病院から退院後30日以内の届出 のみで診療報酬の算定が可能）

- 一定の成果あり。しかしがんパスWGの活動では不十分。拠点病院間での意識の差あり

平成26年度の取組み：

- 平成26年度にがんの地域連携パス部会を設置。各拠点病院、各圏域での**地域の状況に即した推進を要請した。**
- 平成26年度末時点でのがんパス進捗状況について、45病院にアンケート調査を行った

兵庫県でのがんパス進捗状況

H26年度兵庫県がんパス調査(H26.4-H27.3)

H27年5月調査

アンケート対象施設:

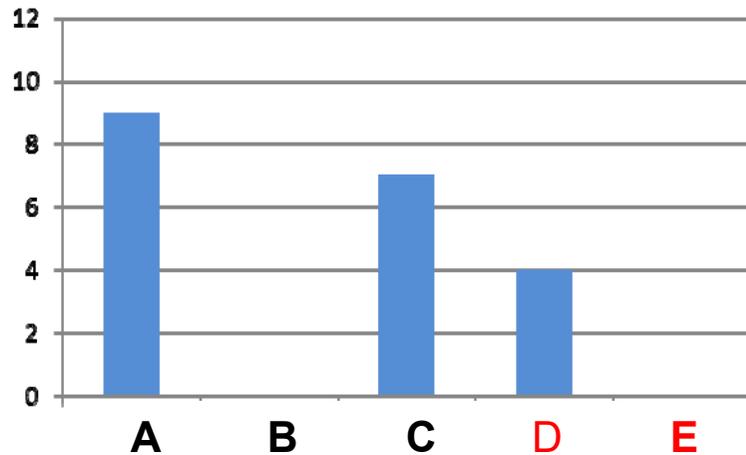
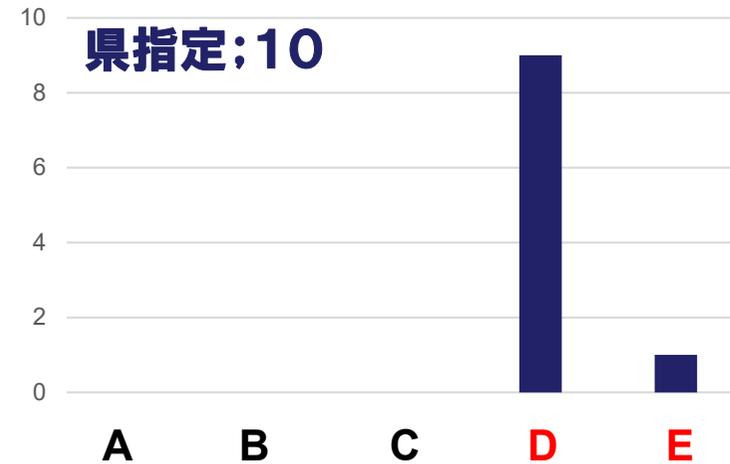
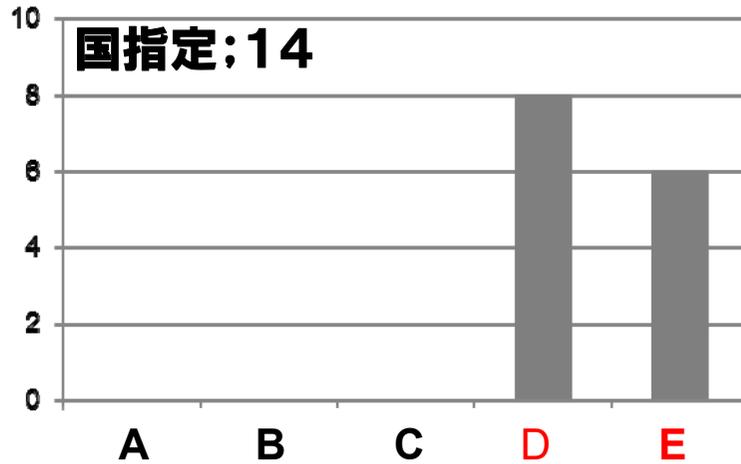
国指定がん診療連携拠点病院 14病院

兵庫県指定がん診療拠点病院 10病院

拠点病院に準じる病院 23病院

がん診療連携パスの進捗状況

➤ 1. 連携システムの構築, パス進捗状況について



A: 院内で調整中である
B: 施設基準の届け出前
C: 施設基準の届け出が始まっている
D: 実際にパスが稼働(少なくとも1種類)
E: 5大がん全てのパスが稼働中

未回答(1): 神戸市立医療センター西市民病院

がん診療連携パスの進捗状況

アンケート, H27年3月末

計 3,020

➤ 2-1. パス稼働について (5大がん): 平成25年度末, 1,784例

	県内パス登録件数 (平成22年4月～平成27年3月末の累計)					
	合計	乳がん	胃がん	大腸がん	肺がん	肝がん
	2,778 (92.0%)	943 (31.2%)	891 (29.5%)	497 (16.5%)	388 (12.8%)	59 (2.0%)
県立がんセンター	673	170	234	156	105	8
近畿中央病院	316	193	80	41	2	
姫路赤十字病院	194	123	29	32		10
関西労災病院	194	70	110	10	4	
神戸市立医療センター 中央市民病院	220	158	43	4	15	
県立淡路医療センター	181	1	43	24	94	19
兵庫医科大学病院	201	58	54	20	62	7
製鉄記念広畑病院	91	91				
市立伊丹病院	131	17	43	48	23	
他 36施設 (国7, 県8, 準21)	577	62	255	162	83	15

➤ 2-2. パス稼働について (子宮体がん, 前立腺がん)

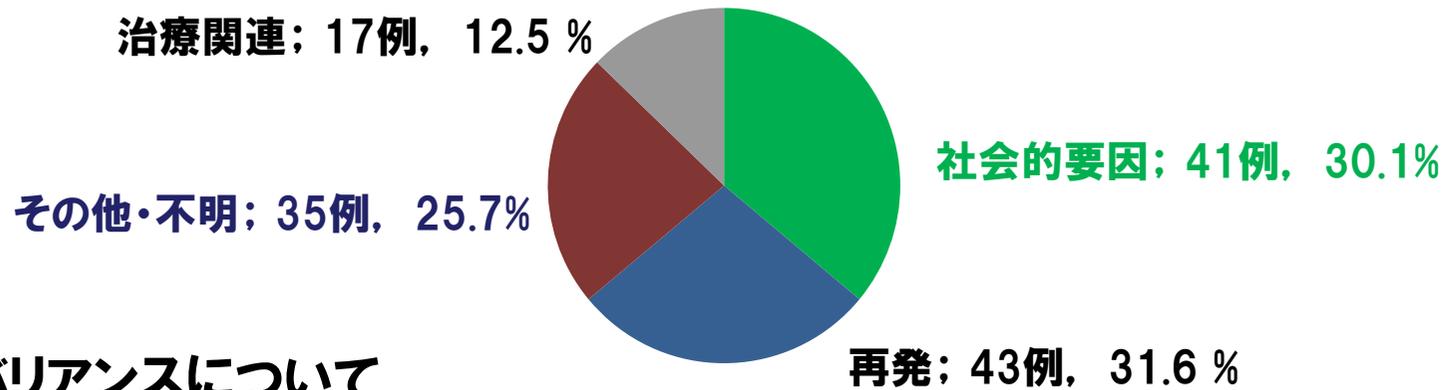
- ・子宮体がん: 1(0.3%)
- ・前立腺がん: 241(8.0%)

平成26年度の1年間で、1,178件追加

がん診療連携パスの進捗状況

➤ 3. パス脱落例について

計	乳がん	胃がん	大腸がん	肺がん	肝がん	子宮体がん	前立腺がん
3,020	943	891	497	388	59	1	241
136例 4.5%	15例 1.6%	37例 4.2%	34例 6.8%	40例 10.3%	10例 16.9%	0	0



➤ 4. バリアンスについて

計	乳がん	胃がん	大腸がん	肺がん	肝がん	子宮体がん	前立腺がん
3,020	943	891	497	388	59	1	134
13例 0.4%	0	6例 0.7%	3例 0.6%	2例 0.5%	2例 3.4%	0	0

平成27年度の活動計画

- 患者の医療情報と目的を共有して、地域のチームでのがん医療を進める。治療の全体像が目に見える形で進める

（患者、連携医、拠点病院のすべてにメリットがあるように）

- パス適応条件や使いやすさ等に課題はあるが、拠点病院としては継続的に使用していくことを確認

- 地域連携における関係構築のきっかけづくりとしてもパスは有効。連携医療機関の把握などが容易となる

（各地域、各拠点病院での状況に応じて判断）

- 27年度には、連携の良好な施設の連携のノウハウを共有する
- 兵庫県の統一パス策定後、27年度で5年経過のため、パスの簡略化、電子化、情報共有などの再検討を行う

がん対策加速化プラン

(2015/12策定)

3本柱：①予防、②治療・研究、③共生

③共生 「地域医療」：

● 緩和ケアを含む地域完結型のがん医療・介護の推進

がん患者が住み慣れた地域や住まいで療養生活を送ることができるよう、拠点病院との連携を確保しつつ、在宅医療・介護体制の整備等を進めることは喫緊の課題。

がんの地域連携パス ーより安全で使いやすいものに向けてー

基本的考え:

患者家族・かかりつけ医(連携医)・拠点病院の3者にメリットがあるように
煩雑ではなく、簡便で、使いやすいもの (パスの簡略化)
すべての患者は、地域医療連携で進める (地域完結型医療の推進)

2)連携ノートは、患者・家族が記載 (医療関係者はサポート程度)

- ・大きさは、A4、B5、A5など (各拠点病院で決定)
- ・緊急時連絡先なども記載 (まずはかかりつけ 医との相談が前提)
- ・がんの治療の全体像、流れ、チームの役割を提示して安心感を高める
- ・大まかな検査予定の確認を行い、患者・家族で管理

3)医療者用の連携診療計画表は、「検査の予定の確認」

- ・症状などの項目は削除
- ・診察所見は、「カルテに記載」

4)パス説明文書は、診療情報提供書に記載する内容は説明文書から削除。

- ・同意書については、要検討
- ・がんパス専用のFax送信用紙の使用は自由 (通常の診療情報提供書で可)

5)電子化は、h-Anshinムコネットなどで準備中。あまり進まず、継続審議とする